

松伏かがり火通信



アンコンシャスバイアスってなんだろう？

日本語では「無意識の偏見や思い込み」などと表現され、誰もが持っているものです。自分の経験から得られた価値観なので、違和感に気づかずに誰かを傷つけたり、自分や周りの可能性を狭めてしまうことがあります。以下の項目で違和感をチェックしてみましょう。

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> おままごとは女の子だから男の子はしない <input type="checkbox"/> 男の子なのだから人前で泣くべきではない <input type="checkbox"/> 髪の色や肌の色がみんなと違うから一緒に遊ばない <input type="checkbox"/> 女性は女性らしく、男性は男性らしく <input type="checkbox"/> 共働きでも家事、育児や介護は女性がすべき <input type="checkbox"/> 男性は結婚して一人前だ <input type="checkbox"/> 組織のリーダーは男性のほうが向いている <input type="checkbox"/> 育休を取る男性は仕事への意欲が低い <input type="checkbox"/> 女性は感情的になりやすい <input type="checkbox"/> 男性は気が利かない <input type="checkbox"/> 男性は将来のために部活も勉強も頑張らなければいけない | <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 上司が女性では仕事の士気が下がる <input type="checkbox"/> 女性の幸せは結婚して子供を育てること <input type="checkbox"/> 男性はお酒を飲めて当然 <input type="checkbox"/> 受付、接客、応対(お茶出し)などは女性の仕事だ <input type="checkbox"/> お父さんが言うことは間違いない <input type="checkbox"/> 血液型を聞いて「ああ、こんな性格の人」と思う <input type="checkbox"/> どうせ無理と、とっさに思うことがある |
|---|--|



いかがでしたか？上記のものは、たくさんある例のごく一部です。いくつか心当たりがあったかもしれません。あなたが経験から培ったアンコンシャスバイアス自体に、良い悪いはありませんが、相手に押し付けないという「意識」を持つことが大切です。相手を尊重する心を持ち、自分の気持ちはどうなのかな？という、その時々で無意識の思い込みと向き合ってみましょう。モノの見方が変わったり、他の可能性を考えて一歩踏み出す勇気ももてる等、様々な変化があるかもしれません。



男性育休

～取得が当たり前になるように～



令和4年4月に育児・介護休業法の改正があり、10月から産後パパ育休（出生時育児休業）の創設等、段階的に施行されています。男性も育児休業を取得しやすい環境が整ってきたように思えますが、育児や仕事の不安はぬぐえません。今回は育児休業を取得した役場職員二人に話を聞きました。かけがえない時間を楽しく過ごせた様子をご紹介します。



第一子（現在 3才1か月）
【育休期間：有休含む2か月間】
第二子（現在 1才8か月）
【育休期間：有休含む7か月間】

■ きっかけ

第一子は、妻が実家への帰省はしない意向があったこと、生まれてくる子と過ごしたいという想いで、第二子では、一緒に子どもと過ごしたいという気持ちだけでなく、正直、妻ひとりで第一子（1歳6か月）を見ながら生まれてくる第二子を見るのは無理だろうと思い育休取得を決めました。

■ 育休取得への周囲の理解

第一子、第二子ともに出生半年前には育休取得することを決め、上司や同僚にアナウンスをしました。当時、1か月以上の男性育休取得者がゼロだったこともあり、職場の理解がどこまであるのか不安でしたが、上司や同僚の協力、また人事担当の方のサポートもあり、嫌な気持ちをせずに育休取得まで送り出していただきました。とても恵まれていたと思います。

■ 育休取得中の過ごし方

児童館、子育て支援センター、図書館、公園など、この機会に色々巡ってみようと思い、自分の住所地以外も含めたくさんの施設に足を運びました。時間帯を問わず大変なこともたくさんありましたが、育休中に妻と大切にしていたことは、「育児をいかに楽しむか」でした。そのため、育休中にやりたいリストを作成し、一つひとつ家族と実行していくことはとても良い思い出になったと思います。

■ 印象に残っていること

第一子が生まれ、1週間後には自宅で沐浴を開始。初めての沐浴で力が入りすぎ腰を痛め、接骨院への通院もスタートし、慣れない子育てで身体の使い方や力の入れ方が分からず、初めは疲労感が半端なかったです。

■ 育休取得を考えている男性へのメッセージ

制度的には認められているというのは前提ですが、「今の職場（上司や同僚）で育休とれそうか」「経済的に問題ないか」など色々悩みましたが、「なぜ育休をとりたいのか」ということを明確にすることで、少し大袈裟ですが育休取得を決意することができました。職場に復帰した今、育休を取得し心から良かったと思います。



Bさん (30代)

第一子 (現在 4才3か月)

第二子 (現在 6か月)

【育休期間：1か月間】

■ きっかけ

一人目が生まれたとき、育休を取得できなかったため、仕事から帰ると子どもの成長にいつも驚いていました。そのこともあり、もし、二人目が生まれたら間近で成長を見届けたいと思っていたため育休を取得しました。

■ 育休取得への周囲の理解

上司に相談したところ、快く取得を後押ししてくれ、毎日業務内容を共有するため、積極的に話をしていたので、スムーズに休みに入ることができました。

■ 育休取得中の過ごし方

第一子を保育園に送った後は、第二子にミルクをあげたり、お風呂に入れたりしていました。また、夕方は第一子のお迎え、夕食づくりなどをしていました。妻も、私一人に任せるわけではなく、一緒に協力してくれたので、楽しく過ごすことができました。

■ 印象に残っていること

昨日までは、できなかったことができるようになっていたり、少しずつ体重が重くなったり、毎日ちょっとした成長を感じられたことです。

■ 育休取得を考えている男性へのメッセージ

生後間もない期間は、子にとっても、親にとっても、特にかげがえのない時間であることを改めて感じることができました。もし、少しでも取得の意思があれば、是非前向きに考えてほしいと思います。

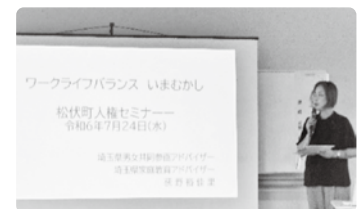
～ワーク・ライフ・バランス いまむかし～

令和6年7月24日に埼玉県家庭教育アドバイザーで人権擁護委員としても活動され、松伏町男女共同参画推進委員の荻野裕佳里氏を講師に迎え人権セミナーを開催しました。(第8弾)

少子高齢化に伴い生産年齢人口は減少し続け、なかなか進まない働き方改革、仕事と家庭の両立など、働く人のニーズは一層多様化し、私たちの考え方もシフトチェンジが必要なようです。

2040年、働き手が現在より2割減るとされる「**8がけ社会**」が話題になっています。日本の高齢化率は35%に迫り働き手の中心となる現役世代(15～64歳)が1,200万人も減ると推計されています。昭和・平成・令和と家族の形は大家族から核家族化し、共働き世帯が増えました。インターネットの普及で生活の利便性は向上し、男性の家事・育児参画が増え、ランドセルの色が自由になり、なりたい職業を選べるようになり、社会全体が少しずつ変わってきました。

今年もジェンダー・ギャップ指数が発表になりましたが、日本は、146か国中118位で、過去最低の順位だった前年(146か国中125位)からわずかに持ち直したものの、下位グループを抜け出せていません。男女平等が進まない理由として、政治・経済の分野で「著しい格差がある」と指摘されています。まだまだ男女間の不平等は大きいのが現状です。





～危険が潜んでいる「JKビジネス」～



近年、大都市の繁華街を中心に女子高校生等によるマッサージ、会話やゲームを楽しむなどの接客サービスを売り物とする営業が見られ、「JKビジネス」と呼ばれています。

一見すると問題のないアルバイト先に見える場合でも、女子高校生等が客から児童買春等の被害に遭うなどのケースが目立っており、安易に働くことはとても危険です。

「JKビジネス」に係る各種トラブルに遭った時は
警察相談専用窓口「#9110」や近くの警察署・交番等に相談しましょう。

DVとは 夫婦や恋人など親密な関係で行われる暴力行為をいいます。

- ・身体的暴力 …… 殴る。蹴る。物をなげつける。突き飛ばす。刃物を振りかざす等。
- ・精神的暴力 …… 大声でどなる。無視する。交友関係や毎日の行動を細かく監視する等。
- ・経済的暴力 …… 生活費を渡さない。仕事を辞めさせて経済的に弱い立場にさせる等。
- ・性的暴力 …… 望まない性行為の強要。避妊に協力しない等。
- ・子どもを利用した暴力 …… 子どもへの加害をほのめかす。子どもを被害者から離す。子どもに被害者が悪いと思わせる等。



ひとりで悩んでいないで…相談してみませんか？

◆女性相談(要予約)◆

曜 日：月曜日(第1・3・5)、水曜日(毎週)、土曜日(第2・4・5)
 時 間：午後1時～4時
 場 所：役場内相談室(保育希望者は予約の際にお伝えください)
 電 話：企画財政課 991-1815



あなたの経験や知識を町政にいかしてみませんか

町では、あらゆる分野への女性の参画を推進するため、各種審議会や講座等の講師に女性を積極的に登用したいと考えています。そこで、町と協力して何かやってみたい人、得意とする分野で活躍したい人を募集しています。



対象：町内に在住・在勤(在学)の18歳以上の女性で次のいずれかの要件を満たす方

- (1) 町政や地域の発展に熱意を持っている人
 - (2) あらゆる分野の有識者及び有資格者
 - (3) 勤務先や各種団体で社会活動を行っている人
- 詳細は企画財政課へご連絡ください。

※登録した方が必ず審議会委員や講座等の講師に登用されるものではありません。

☆「松伏かがり火通信」は、平成27年にNo. 1を発行、同年に完成した「かがり火公園」から引用したものです。

☆「松伏かがり火通信」について、ご意見・ご感想をお寄せください。

発行／松伏町企画財政課 TEL 991-1815 FAX 991-7681 メール kizai1020300@town.matsubushi.lg.jp